

平成19年度 岩本町ほほえみプラザ 事業報告書要約

平成19年度の概況

<p>1 サービス向上</p> <p>①ほほえみサポート隊登録70名、介護予防事業3教室、延べ1128名参加。参加者同士の交流もでき始めた。</p> <p>②事業所として食事の統合ができず。(新調理システムを利用した食事作り)</p> <p>③中央労働基準監督署調査:労働時間・労務管理(6/8)、千代田区指定管理者監査(10/25)、第三者評価(9/1～1/31デイサービス、ショートステイ、グループホーム、ケアハウス)、介護サービス情報公表(11/6デイサービス)、都実地指導(11/27ケアハウス)、法人サービス自己評価・意見交換会(12/1～1/18)</p> <p>2 業務マニュアルの推進・検討</p> <p>3 部署間の連携</p> <p>委員会・施設巡回等を通して他部署を理解</p> <p>4 地域との協力</p> <p>運営協議会を2回開催、次年度は緊急・非常時対応を協議・改善提案の実施</p> <p>5 各事業について</p> <p>①デイサービス(一般30名、認知12名)</p> <p>一般・認知を分けて活動</p> <p>稼働率:一般79.8%、認知61.9%、</p> <p>②ショートステイ(定員20名)</p> <p>稼働率:106.6%</p> <p>③グループホーム(定員9名)</p> <p>入所基準の整理、重度化へのへの対応</p> <p>稼働率:95.3%</p> <p>④ケアハウス(定員20名)</p> <p>入所基準の整理、重度化への対応(家族との関係強化)</p> <p>稼働率:95.3%</p> <p>⑤健康回復支援ショートステイ</p> <p>地域包括支援センターとの連携・連絡関係未調整</p> <p>実人数4名、延べ55日</p> <p>⑥介護予防事業</p> <p>特定高齢者:転倒骨折予防教室(2名参加) 栄養改善教室(1名参加)</p> <p>一般高齢者:3教室、活動日数120日、実人数63人、2月17日介護予防事業発表会実施 参加者50人、内容:各発表教室・講演・交流会(お汁粉作り)</p> <p>6 区民施設等 稼働率:28%</p>
--

平成19年度の課題

<p>1 事業運営の見直し</p> <p>①行事・各部署間の連携強化</p> <p>2 人材確保・育成</p> <p>①実習生受入れ等、連雀と連携する</p> <p>②研修体制の整理</p> <p>③OJT</p> <p>3 地域包括支援センターとの連絡・連携</p> <p>①神田地域の在宅・施設利用者(介護予防事業等)</p> <p>4 介護予防・ほほえみサポート隊の整理・充実</p> <p>①ほほえみサポート隊の組織化</p> <p>5 防災意識の向上</p> <p>①高層ビル防災訓練の充実・地域との連携</p> <p>6 利用者・職員の安全確保</p> <p>①年間を通じた感染症予防の充実、厨房の調理環境整備</p>
---

		サービス利用・提供状況	平成19年度事業計画の執行評価
運営・管理	事務局担当	<p>1 経理事務</p> <p>厚生労働省会計処理等取扱い一部改正に伴い、主に通所介護について、「一般」「認知」にセグメントを変更し、科目の追加等を行い、収支分け等を行った。</p> <p>2 請求事務の充実と業務の省力化について</p> <p>神田事業所として協力し、実績を固め、法人事務局での集約へ円滑に繋げていくことができた。</p> <p>3 庶務</p> <p>勤怠システム導入により、勤怠処理の省力化、各種勤務届出の徹底ができてきた。</p>	<p>1 【管理】</p> <p>指定管理者2年目として、諸関係機関との連携を図るとともに、「安心・安全・信頼」を高められるサービス提供ができるように、各事業を調整した</p>
	サービス向上	<p>1 デイサービス稼働率向上、滞在・入所は95%以上</p> <p>2 地域いきいき推進事業は参加者各人の目的を持った教室となり、参加者同士、さらに各教室を越えて交流が行われた。プラザ事業を知っていただく機会となった</p> <p>3 小・中・高校との交流が広がり、プラザが異世代交流の場となってきた</p>	<p>1 地域いきいき推進事業の参加者が、プラザ事業のサポート隊・非常勤雇用者となっており、プラザの理解者としていた</p>
センター	区民施設等	<p>1 区民施設関係</p> <p>(1)多目的ホール等の区民施設利用人数および使用料収入は、岩本町東神田地域の交流拠点として前年に比し、増加した。地域いきいき推進事業や地域交流事業の実施場所としても大いに活用された。</p> <p>(2)駐車施設関係</p> <p>駐車台数30台分のうち、現在8台の利用実績がある。いろいろな利用に向け、問い合わせがある中で、車輛の全幅、車高、重量等が規格に適合しない場合が多く、利用に結びついていない現状がある。</p>	<p>1 区民施設関係</p> <p>(1)多目的ホール等区民施設の使用料の引き上げについては、利用を促進していくため、見送ることとした</p> <p>(2)区内企業の申込み開始日を早めることについては、現状どおりとした</p>
	デイ	<p>定員:通所介護(介護予防通所介護含む)30名</p> <p>認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護含む)12名</p> <p>1 実績 稼働日数:308日 平均稼働率:通所介護79.8% 認知症対応型通所介護61.9% 全体70.9%</p> <p>18年度より健康体操に介護予防利用者も楽しめるよう介護予防的側面を持たせ実施。19年度も継続し更なるサービスの充実を図った。認知症対応型通所介護は通所介護から認知症通所介護への移行者や登録日の増加から稼働率が上昇した。</p> <p>2 地域支援事業 転倒骨折予防教室:全14回実員2名延べ24名、栄養改善教室:全5回実員1名延べ5名</p> <p>3 地域いきいき推進事業</p> <p>ヨガ教室:全48回延べ522名、太極拳:全27回延べ222名</p> <p>シルバートレーニング:全50回延べ631名、ヨガ教室(地域交流事業)全16回延べ214名</p>	<p>1 ケアプランに基づき統一した援助を実施。家族・利用者への確認時期がずれてしまうなど課題残る</p> <p>2 担当を明確にしたことで利用者の状態像やニーズがよく把握できた。初年度のため一般・認知を分けての活動は改善を要す</p> <p>3 利用者の声を活動に反映した</p> <p>4 入浴担当者会議にて課題抽出、業務に反映、新人向け研修を実施</p> <p>5 業務マニュアルⅡの動きにあわせ実施</p>
ホーム	ケアハウス	<p>定員:2名、実績:4名、55泊、稼働率:100%</p> <p>1 介護または見守りが必要な方の利用もあり</p>	<p>1 必要書類と生活のしおりを見直して整備し、受入れ体制を整えた</p> <p>2 包括支援センターとの連携不十分</p>
	グループホーム	<p>定員:20名 稼働率:95.3%</p> <p>要支援・要介護認定の入居者が増え、訪問介護・訪問看護による家事援助や身体介護、通所介護などを利用する入居者が増えた。自室や外出先での転倒も見られ、状態回復までの間デイサービスの利用回数を増やしたり、ショートステイ、訪問介護導入などを組み合わせ、個々の安全を確保した。</p> <p>*平成19年度新規入居者:女性1名(在宅より)。退居者:女性1名(特養入所)</p>	<p>1 援助に関わる関係者との連携を密に行ない、適切な支援・サービスが提供できた</p> <p>2 個別支援計画書のモニタリングを実施</p> <p>3 職員の防災訓練状況やマナーについて入居者に評価を実施してもらった</p>
	ショートステイ	<p>定員:9名 稼働率 95.3% 平均介護度 3.0</p> <p>『ご利用者が少しでも主体的な生活が出来る活動』をということを年度のテーマに掲げたが、ご利用者の身体的自立度の差は大きく、日常生活での介護の量は多くなっていた。目の前にある介護に対処することで、主体的な支援への取り組みを置き去りにしてしまった。職員の介護技術や効率的な工夫など低いと思われる部分はあるが、ご利用者へ親切丁寧に接する姿勢は、ご利用者の気持ちを大切に、ゆったりとした雰囲気の中で生活を送って頂いた。</p> <p>定員:短期入所生活介護・予防短期入所生活介護 20名</p> <p>実績 稼働日数 366日 平均稼働率 106.6%</p> <p>1 H18年度介護職員の半数が新任職員に入れ替わったが、職員各人の介護技術向上に伴い、レクリエーションとしての回想法の実施や、羞恥心に配慮したケアを提供する体制の模索など、幅広い介護度、多様なニーズの利用者に対するケアの提供に取り組んだ</p> <p>2 新規利用者から継続利用へつながるケースが多く、年間の稼働率も上昇している。区・包括支援センターを通じての緊急ショートへの依頼がH19年度増加した</p>	<p>達成度としては低いですが、それを行なうべくベースがなかったのそれに着手、次年度も継続する</p> <p>1 職員の他施設への研修の実施</p> <p>2 生活空間の安全・介護・支援を考えた環境整備</p>
連携	<p>1 複合施設であり、共通して利用者の介護度が高くなり、CH、GHの健康管理が多くなってきたため、関係部署との連携をはかりながら情報の共有化に努めた</p> <p>2 利用者には、嗽、手洗いの徹底により感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)の予防に努めた</p> <p>3 職員に対し、インフルエンザの予防接種、健康診断により健康管理、健康相談に努めた</p> <p>4 職員に感染症の研修を行い、知識向上により感染予防に努めた</p>	<p>1 他部署との情報交換がスムーズに行なえず連携不足があったため、次年度の継続課題とする</p> <p>2 感染症研修を実施し、職員の意識向上になった</p>	
	食事	<p>1日平均提供数:156食 年間提供数:57,130食</p> <p>年間平均栄養素 1580kcal たんぱく質:58.1g 塩分:9.1g</p> <p>1 ショートステイ食事チームの協力のもと嗜好調査を実施</p> <p>2 デイサービスでは1月よりアットホームワゴンを導入し、より適温での食事提供に努めた</p> <p>3 危険な食品が出回るなか、業者へ証明書の提供を求めたり、危険食品を排除するなどの対応を行い、安全な食事の提供に努めた</p>	<p>1 かんた連雀との統合は行えなかったが、職員間の連携を行ったことにより、職員技術の向上は段階的に行えた</p> <p>2 職員体制が安定せず、他部署との関わりや利用者ニーズの献立への反映が不十分であった。次年度の課題とする</p> <p>3 衛生管理を徹底し、事故を起こさなかった</p>